

慶藏院寺報

# 公孫樹

2020年11月発行

第106号

浄土宗慶藏院

伊勢市小俣町元町1211

TEL 0596 (22) 3726



鞍馬石と貴船石 西里定一 画

境内に寄贈された

鞍馬石と貴船石のストーンヘンジ

岡崎の石川さんが寄贈された鞍馬石と貴船石のストーンヘンジは、十月十六日、岡崎の菅沼石材店さんと地元、西野建材さんの協力をいただいて、釣鐘の傍らに建立されました。私がお経と大念仏、石川さんが祝詞とお祓いを行い、神仏習合による落慶法要を行いました。

何の違和感もなく、最初からここにあったように、この場所に収まりました。どうぞ一度お参りいただければと願っています。

石川さんはお父さんが下小俣の出身で、平成三十年に、息子さんと一緒に五重相伝にお入りになられたことがご縁のはじまりです。古神道に通じておられ、ご先祖を大切にされています。硬式野球のホールの直撃を受けた息子さんの奇跡の生還や、火事になってもおかしくない状況下にあった、仏壇・神棚に囲まれて煙だけで済んだという奇跡など、数々の体験をお持ちの方です。

五重相伝の体験についても「真つ暗な暗闇の中で光るお坊様方の優しいお言葉、温かい手に手を取ってのお導き、光明摂取…と話される住職様のお声、まさに暗闇の中の一縷の光」と述べておられます。

「和心」と書いてこの碑石を建立された意図を、石川さんはこのように語っておられます。

「植物も、動物も、自然界も、命あるすべてを、私たち人間は、尊び、敬うこと。それが地球の平和の礎となる。敵、味方、良い、悪いは、何もありません。天とつながる柱を以て、光り照らすのだ。明き世へ。」

鞍馬山は金星からの隕石が落ちて出来た地球最古の山だそうです。その山から出土した鞍馬石。「天とつながる柱」となって、境内に建てられています。コロナ禍のなかにおいて、この鞍馬石の柱は、私たちに何を語ってくれるのだろうか。楽しみます。

# 11月の行事予定



4日(水)	写経 映画会	午前 10 時～ 午後 7 時半～
11日(水)	念仏会	午後 7 時半～
18日(水)	健康教室 認知予防体操・笑いヨガ 講師 橋元慶男先生 歩き方教室 講師 馬場久美子先生 男性詠唱隊	午後 1 時～ 参加費 500 円  午後 7 時半～
25日(水)	戦没者慰霊 読経会	午前 11 時～ 午後 7 時半～
13日・27日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後 7 時～子ども茶道教室 午後 7 時半～大人茶道教室 子ども 無料 大人 500 円
12日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前 10 時～11 時半 午後 1 時半～3 時 参加費 1000 円
予約があれば水曜日	キサン シンキングボウル ヒーリング	午後 1 時～ 要望に応じて 30 分～60 分

## 慶蔵院豆知識

③

このほど修繕してもらった慶蔵院の高塀は、白漆喰の真っ白な美しさはありませんが、豆砂利入り、「洗い出し手法」の、あまり高くはない、優しい静かな塀となったと満足して感謝しています。一応、土塀に類する塀となります。

ずい分昔のことになりますが、石垣の隙間から蛇が顔を出しているのに気づき、これは大変なことになった…、このままではこの塀が崩れてしまうと思ったことがありました。その心残りであったことが、こうして修復、完成できたことを大変うれしく思っています。

昔の人は、「洗い出し手法」に、良く揃った小さな丸石を川辺で拾い集めて使用したようです。今は、原石を小さく切った機械にかけて丸砂利を作っているようです。

今回、これまでの壁の表面を、少しづつ剥がし、練土を混ぜて積み重ね、隙間の無いように仕上げて下さいました。塀がもし出す色は、原石の色です。また何百年もこのまま残ると思います。

(栄子)



S君のドラマが本になりました!!

## あきらめたら、何も起こらない

### 創設活動の先にあった夢の舞台 ⑤



けれど、奇跡は起きなかった。

最後の全体練習日は4月26。夜8時までひたすらゴロを捕った。数人の後輩が胸上げしてくれ  
た。最終日の30日には、支えてくれた人たちへ感謝の思いを込め、地元の駅周辺で「ミ」を拾った。

家に帰ると、涙があふれ出た。結局、最後まで夏の舞台に立てなかったし、そもそも野球部が  
創設されることもなかった。くやしくてしかたがない。

やっぱり意味がなかった。何も残らなかったし、ムタだった。  
もう真剣に野球をやることもない。

「今日で野球部創設活動を終了します。壁は越えられなかったけれど、今までありがとうござい  
ました」

区切りとして、ツイッターに思いの丈と活動の終了をつづった。  
心が空っぽのまま、眠りにつく。



翌朝目が覚めると、いやにスマートフォンの通知が騒が  
しい。画面を開くと、前夜投稿したツイッターに、膨大な  
数のコメントが寄せられていた。面識のある友達だけでな  
く、見ず知らずのアカウントからもたくさんあった。  
リツイート（引用形式の拡散）は400近くに及び、参  
道を示す「いいね」のクリックは2500近くにのぼって  
いた。

「よくがんばった。おつかれさま」

「前向きな取り組みに、勇気をもらってました」

「私は何も知らになれなかったけれど、応援していまし  
た」

「最後まであきらめない姿がかっこよかった」

「結果は残念でも、すばらしい行動力に感動しました」

目を疑った。一時はひどい声ばかりで、見るのも怖かっ  
たツイッター。今はこんなにたくさんの方が、認めてくれ  
ている。ほくの活動に否定的だった同級生さえ、「お前、  
すごいな」と言ってくれた。自分の歩みは、ムタではなか  
ったのかも知れない。(つづく)

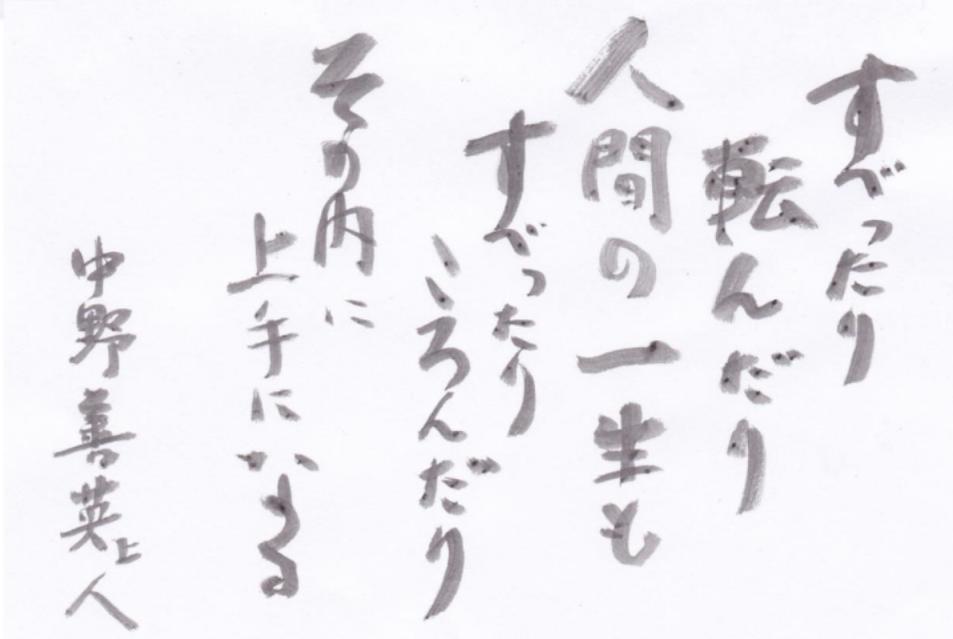
### ★ご連絡★

※後期分護持会費の納入をよろしくお願い致しま  
す。

七五三皆と離れて語です

奥田 悦生

(「知恩」誌十一月号「柳壇」に掲載)



水曜日ごとに続けてきた辻説法が、四三四回になりま  
す。

「そのうちに上手になる」の「そのうち」は、まだまだ  
遠くにあります。これからも一回、一回と積み重ねさせ  
ていただくだけです。

中野善英上人の言葉に関連するような身近な出来事を  
絡めて話をまとめる。もう一度同じように話してみよう  
と思ってもなかなか同じようには話せない、火事場のな  
んとか…のような辻説法です。

善英上人は、「すべったり、転んだり」というたとえ  
話で念仏の称え方を語っておられるのだと思います。生  
活の中の念仏なのか、念仏の中の生活なのか。

朝の勤行での十分間の念仏が、今日一日の生活を包み  
込んでくれているような、念仏に励まされ、生かされて  
いるという感覚が生まれてきたように思っています

来月、十二月十三日、午後からの「成道会」に尺八の  
演奏を聴かせていただくことになりました。演奏して  
くださる方は、「ほうれん草冷麦・うどん」を製造してい  
ただいている伊藤製麺所のご主人、伊藤昇さんです。慶  
蔵院で冷麦やうどんを注文して四十年になります。この  
度、ほうれん草を入れて製造していただけないかと願  
いにかけて、尺八のことを知りました。

ご自宅の座敷には、譜面台・楽譜・尺八が置かれてい  
ます。「いきつくところは念仏ですね」と静かに語ら  
れる伊藤さん。ぜひ伊藤さんの念仏の中の尺八の演奏を  
お聴きしたいと成道会での演奏をお願いしました。どう  
ぞご期待ください。